参考資料１

千葉リハビリテーションセンター施設整備検討会議の開催状況及び主な意見

１．開催状況

（１）．第１回検討会議（平成 30 年 8 月 30 日（木）17:00～19:00）

① 検討会議の役割について
② センターの概要について
③ センター再整備事業について
④ 建替えに向けて期待することについて
⑤ 庁内関係課からの意見等について

（２）．第２回検討会議（平成 31 年 1 月 9 日（水）15:00～17:00）

① センターの機能・役割について
② 調査対象地における検討状況について

（３）．第３回検討会議（平成 31 年 3 月 20 日（水）15:00～17:00）

① 役割・機能及び施設整備の方向性について

２．検討会議における主な意見

（１）．総合リハビリテーションセンターとしての役割

・総合リハセンターとしての高度なリハサービスを提供できる、千葉県においてのトップの機関であるということを追求することが重要。
・千葉県には独立した心身障害児総合医療療育センターや心身障害児総合発達支援センターが無く、今後も、この分野における全県的なセンターとして機能を発展・拡充して欲しい。
・千葉県全体を対象とする総合リハビリテーションセンターとして県民全体にとって利用しやすいセンターであってほしい。
・児童、青年、成人、高齢者等すべての年齢層のリハビリテーションニーズに対応できるサービスを整備して欲しい。
・千葉リハの役割は、若い世代を地域に戻す、共生するためのリハビリテーションが重要。
・高齢者のリハビリテーションは地域でやるべき。若い世代のリハビリテーションは県全体を考えて機能すべき。
・重度の頸髄損傷のリハは千葉リハ主導で実施して欲しい。
・非常に重度であり、対応が難しい方であって、地域における二次的な施設では対応できない方に対応する機関であることが重要。
・ただ収容するのではなく、施設支援としてのレクリエーションや健康管理等、利用者の生活リズムを作る取り組みも重要。
・単純に回復期リハ、就労支援とか、地域に帰すだけではなく、そこから先も含めたリハを提供して欲しい。

（２）．センターの機能

【病院機能（リハビリテーション医療施設）】

① 対象患者

・脊損や高次脳機能障害などについては、一般の回復期病院では手に負えないため、そういう方に対してこのセンターが十分に機能することが重要であり、それに配慮した施設整備が必要。

・高齢者と障害者の両方に対応する施設として、回復期病棟を十分に活用して、県内の他回復期病院のお手本となるような回復期病棟運営をして欲しい。

② 診療科

・リハビリテーションセンターという特徴からして、精神科は非常に大事。内科でも血栓のリスクも通常の方に比べると高く、そういう時の緊急に備えて、循環器内科も常勤がいいのではないか

・皮膚科や耳鼻科についてもできれば非常勤ではなく常勤医師に診療していただきたい。

・若い世代の障害者の中でも褥瘡や色々な変形の矯正、とりわけ脊損の場合には泌尿器科の疾患への対処が必要。

・脊損者の入院から退院後の生活までトータルでサポートできるような診療を可能にして欲しい。

・脊損者の歯科診療を増やして欲しい。

③ 手術等

・整形的なオペの位置付けをどのようにするかが一つの問題ではないか。整形外科医がいっぱい来れば、たくさん手術ができ、技能も高まり、患者も来れば医者のスキルも上がる。

・脊損や高次脳機能障害など一般の回復期病院では手に負えないような方に対して、このセンターが十分に機能していれば県民にとっては非常に優良なセンターになるのではないか。脊損をやらなくてはいけないということであれば、設備的に十分に配慮したものを作っていただきたい

・人工関節手術については、他の病院と競合するような状態であるが、千葉リハの強みであるリハビリテーションとうまく組み合わせれば、他の病院にはできないことが提供できる。

・整形の手術については、今後の千葉県全体の中で考えなくてはいけないし、若い整形科医師にどれだけのニーズがあるかということを考えなくてはいけない。千葉リハは整形外科だけでないので、手術機能を維持することは基本的に賛成。

・高齢者の人工関節手術は、障害予防になるので、千葉リハに必要な機能である。

・脳性麻痺手術等について、こども病院との棲み分けを考えた場合、こども病院には療育機能がないため、千葉リハで実施して欲しい。

・専門医制度における専門医試験の要件として、症例・手術件数が求められるため、医師確保の観点からも手術機能は必要。

・公立病院である千葉リハは、採算性だけではなく、必要とされる機能を提供する義務がある。整形外科に関しては千葉大の整形医局のバックアップが必要。

・手術室を機能させた場合、どんどん手術は進歩して、いかに合併症なくやるということになると、様々な機器、ナビゲーションを入れながらの手術がスタンダードになりつつあり、そういう施設設備を今後バージョンアップできるような予算組みができるのかも大きな問題であって、その辺の医療安全や、そういうところを見据えた観点から考えていくことが非常に大事。

・高度先進的な設備が必要とされるため、高度な技術・設備を持った病院との連携による対応も考えられる。

④　病床数

・人口減少を踏まえると、病床数の削減や需要変化に対応可能な可変的な施設整備が必要。

【療育機能（愛育園）】

①　対象患者

・千葉リハは、障害のある医ケアの方を積極的に診て、県内にも、そういう所をサポートしていけるセンター的な役割が求められている。純粋に障害がなくて医ケアだけというケースは、こども病院が中心的に取り組んでいく方がいい。

・医ケア児のレスパイトや被虐待児の措置入園について、理想からは矛盾するかもしれないが、それが千葉リハに求められている役割であって自信をもってやっていく事業なのではないか。

・医療的ケア児は県の関与、支援状況が十分ではない。実態調査が行われ、全県的にそういう支援に対してセンター的な役割を千葉リハが担うことが必要。

②　病床数・定員数

・重症心身障害等の障害児の待機者が多く、在宅支援を希望している方が多いという実情もありこれに対応できる規模に増やす必要がある。

・千葉県では重症心身障害児者の入所施設が不足しているため、長期入所と短期入所の定員拡充を期待したい。

・最後のセーフティネットとして、県内に待機者がいて、不足するのであればその機能は千葉リハが持つべき。

・千葉県全体のことを考えると東葛・南部等にブランチの役割をもった重症児が入れるような施設を考えていただけたら理想である。

【通園機能（児童発達支援センター）】

①　定員数

・現在「えぶり」や「えぶりキッズ」を利用できるのは、定員数の関係上、2週間に1回や1か月に1回または2回といった状態であるため、定員数増が必要。

【就労支援機能（更生園、高次脳機能障害支援センター）】

①　対象利用者

・脊損や高次脳機能障害の方々に対する就労支援が必要。

・一億総活躍において、「総」の中に障害者も含まれており、就労して社会を共に支えるという視点で重要。

【研究開発・情報発信機能（テクノエイドセンター、補装具製作室）】

・障害のある方が相談に来るだけではなく、もっと広く情報が得られるといった情報センター的な機能も必要。

・生活支援機器等、IT分野で開発されてきている機器等の情報発信が必要。

・大変な重い障害のある方、御家族も含めて、インクルージョン、ノーマライゼーション、共生社会に役立つようなセンターであって欲しい。

・福祉用具の展示に力を入れ、補装具・生活機器の普及を目指すことが重要。

・千葉県は人口も多く、影響力も大きいため、企業や大学とのタイアップは実現して欲しい。
・他の研究施設との連携によって、その成果を活用するのが重要。
・地域に開かれたセンターであることが必要。

【人材育成・地域づくり】
・それぞれの地域で良いサービスを提供するための専門職の人材育成と組織間の連携が非常に重要。
・千葉県全域にアウトリーチは難しいため、各機関が圏域の中でやるべきものの模範を示すようなモデルケース的なものを実施するのが重要。
・医療的ケア児は地域で看るケースが多いので、医ケア児を看たことがない職種、ナースに対して訓練して育てるような機能が必要。
・喀痰吸引研修等にも対応して欲しい。

（３）．施設整備

【利用者・職員のためのアメニティ】

①　環境

・施設内で生活をする、リハビリをする方々に対する生活の質に配慮し、明るい雰囲気であることが必要。
・肢体不自由だけではなく、聴覚、視覚障害の方々に対してもバリアフリーを意識した整備が必要。
・乗降しやすい駐車スペース及び雨除けのための駐車場や玄関の庇整備が必要。
・患者目線が最優先であるが、職員や専門医等の目線でもアメニティの充実が必要。

②　個室

・限られた期間での入院や入所であれば、2～4 人部屋で問題ない。一生を千葉リハで終える場合は、住まいとしての個室整備が必要であり、何を目指すかによって設備も随分変わってくる。
・ある一定数の個室がないと感染症対策上難しいと考える。

③　利便施設

・レストランの整備が必要
・ATM 設置が必要。

（４）．健全経営

・採算性だけではなく、県として、必要な機能提供を踏まえた整備が必要である。
・多面的に利用可能な設備とし、ある障害に特化したというのではなく、使い回せるようなものにしておくと維持管理、ランニングコストの効率が良い。
・年1、2回しか使わないものを作ってしまうと、後々ランニングコストがかかり、人手も必要となるため、使用頻度等の考慮が必要。
・千葉リハは先進的な全国的なモデルとなる事例であるため、十分に健全な経営が出来ないといけない。
・全県的にどうするかというところを指導していく、そういうリーダーシップを取っていくことも千葉リハの役割であり、千葉リハに全てを任せるのではなく、それをバックアップする千葉県であるべき。
・限られた土地、予算であるため、全てを実現することは難しい。限界がある中で考えた時に、やはりそれなりに諦めなければいけないこともある。

（５）． その他機能

【千葉県リハビリテーション支援センターとしての役割】

・様々な年齢層の方に対するリハビリテーションサービスが県内どこででも提供できるように専門職の養成という機能も重要。

・医療の質の向上のために、人材育成と情報提供機能を担って欲しい。

・県内のリハビリテーション専門職（各種）の研修機能も持てると、県内のリハビリテーションサービスのレベルを高められる。

【障害者の健康増進】

・健康増進維持として総合的なサポートを実施して欲しい。

・脊損者の人間ドック等を実施して欲しい。一般的な医療機関で脊損者の健康診断は難しい検査もあり、専門の医療機関で検診を受けたい。

・障害者も高齢化している。高齢になって障害になった方々の大きな課題は健康を維持し、長生きし、働くことが国の施策でもあるため、健康増進に向けた取り組みは重要。

・特に重い障害の方が人間ドッグを受けられる場所がない。重い障害の方への人間ドッグや障害者検診は重要。

【障害者スポーツの推進】

・体育館を貸し出す、一緒にイベントをする等の視点も必要である。

・体育館を作るのであれば、障害者の利用に配慮したトイレや更衣室を設置して欲しい。

・イベントの開催、施設の貸し出しなど周辺地域に開かれた施設として欲しい。

・スポーツ施設・設備を充実して欲しい（体育館、プール、トレーニングジム等）。

・リハビリテーションとしてのスポーツと社会参加ステップとしてのスポーツはどちらも重要。

・中途障害でこれからどうしていこうかという時に、スポーツが出来るということを教えてあげることは重要。

【災害発生時の拠点】

・災害時において、現場に出ていくということも重要だが、一方で福祉避難所という役割も果たさなくてはならない。

・耐震、または免震、災害時の避難拠点としての整備が必要。

・千葉県災害リハビリテーション支援関連団体協議会（C-RAT）による組織的な対応が必要。

【近隣施設との連携】

①　袖ケ浦特別支援学校

・医療と教育が一体となっている袖ケ浦特別支援学校であるということで、保護者が袖ケ浦特別支援学校を選択して、転居してきているという状況がある。

②　千葉県こども病院

・こども病院と千葉リハビリテーションセンターとでは紹介・逆紹介を行っており、連携は今後も必要。